

月報 シオン山

2024年4月7日発行 (No403)

日本バプテストシオン山教会

〒803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなもの
ですが、わたしたち救われるものには神の力です。

コリントの信徒への手紙 一 1章18節

「不思議な言葉」

庄司 まり子

心に刻まれた言葉があります。哲学者であり、教会オルガニストであり教会学校の小学科礼拝でのお話しを欠かすことなく守られてきた川端純四郎先生は、夫の恩師でしたので何回かお話を伺うことが出来ました。先生は執事を長年されていて、ある日夫と3人で話していた時

「執事が教会のことを行っていくから、牧師は十分に宣教を語ることに集中できますように祈ります。」と話されていたことが今の私には大きな支えになっています。20代の私にはこのようなことは私にはおこらないことと思いつながらぼんやりと聞いていた言葉でした

その先生が亡くなられてから論文・講演・エッセイ類から28編を精選した「教会と戦争」が発刊されました。その中の「祈り三題」の抜粋をご紹介します。

『祈ることは求めること、願うことだと私たちは思っている。しかし実はそうではなくて、祈るとは自分の願い、欲望を捨てることイエス様のためにそれを断念すること、イエス様におまかせすることなのだ。

「自分の一切の欲望をおまかせする時、神の平安が私達の心と思いを満たす。」(フィリピ4章6~7節)。だから祈ってはいけないことは何もない。どんな自分勝手な醜い欲望でもかまわない。心の真実をそのままさらけ出す。問題は私がそれをイエス様におまかせできるかどうか、イエス様のためならそれを断念する勇気があるかどうか、そこにある。私の願いに対してイエス様が何とおっしゃるか、それでよいとおっしゃるか、それは間違っているとおっしゃるか、イエス様の返事に耳を傾けること、それがお祈りなのだ。祈るとは聞くことなのだ。だからこそイエス様は「神は祈る前からすべてごぞんじだ。だから祈れ」というあの不思議な言葉を言われた(マタイ6章8節)。ごぞんじなら祈る必要はないと私達は思う。しかしそうではない。ごぞんじだからこそ祈らねばならない。なぜなら祈るとは聞くことなのだから。私の願いに対して何と言われるか。それに耳を傾けよう。あの少年サムエルの祈りのように「主よ、我聞く、汝語りたまえ」と(サムエル上3章10節)』。

心を静かにし、心を合わせて、神様の語りかけに耳を傾けて今年度も、共に歩んでいきたいと思います。